



和歌山県警察における 「犯罪が起きにくい社会づくり」の推進



和歌山県警察本部生活安全部
参事官・生活安全企画課長 警視

中村 富佐夫

1. はじめに

和歌山県警察では、「県民の期待と信頼にこたえる強さと優しさを兼ね備えた警察」を運営指針として、自治体、事業者、防犯ボランティア団体、関係機関等と連携を密にして、「犯罪が起きにくい社会づくり」を目指し、各種犯罪抑止対策を推進しておりますが、その主な取り組み状況について紹介させていただきます。



警察本部庁舎

2. 和歌山県の特徴と犯罪情勢

(1) 和歌山県の特徴

和歌山県は、人口1,000,434人（平成22年6月1日現在）、総面積が4,726km²で、日本最大の半島である紀伊半島の西側に位置します。古くから「木の国」と謳われたほど山林が多く、約8割を山地が占めております。紀伊半島の北西部から南東部にかけは、紀伊水道や熊野灘を臨む変化に富んだ海岸線が続き、本県最南の串本町潮岬は、本州の最南端に位置しております。

本県の観光スポットとしては、平成16年7月7日に世界文化遺産に登録された「熊野三山への参詣道（熊野古道）と高野山」があり、多くの観光客が訪れ、また、県南部に位置する白浜町は、日本有数の温泉地で、夏には海水浴客も多く訪れ、レジャー施設「アドベンチャーワールド」は、パンダ育成で全国的に有名となっています。食では、黒潮が育む豊富な魚介類はもちろ



円月島（白浜町）

のこと、「高野山の精進料理」、「金山寺味噌」、「めはり寿司」、「南高梅」のほか、最近では「和歌山ラーメン」が全国的に知られるようになってきています。

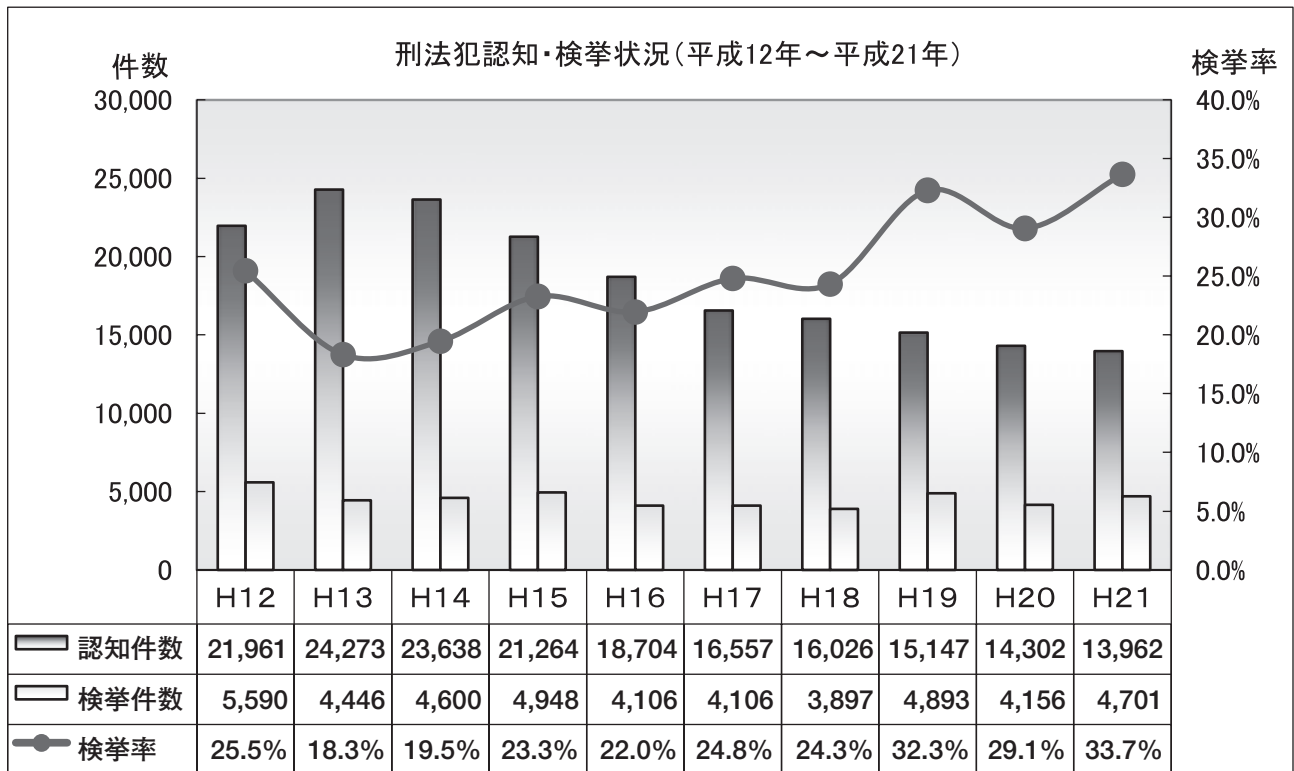


大門坂（熊野古道）

また、和歌山県は、県全域で果樹栽培を中心とする農業が盛んで、みかんや梅、柿などの生産量は全国1位となっており、中でも、「じゃばら」については世界中でも北山村でしか生産されていない柑橘類です。

(2) 犯罪情勢

県内の犯罪情勢は、平成13年の戦後最高を記録した刑法犯認知件数24,273件をピークに8年連続で減少し、平成21年は13,962件とピーク時の57%にまで減少しましたが、犯罪率（人口1,000人当たりの刑法犯発生状況）については、全国ワースト10位と高い状況にあり、また、全体的には、減少傾向にある中、ひったくり、空き巣、万引き等が増加傾向にあるなど、県内の治安回復へは、未だ道半ばといえます。



3. 犯罪抑止対策の推進

(1) 万引き抑止対策の推進

本県の刑法犯認知件数は、平成13年をピークに、8年連続で減少しておりますが、万引きについては、逆に増加傾向にあります。平成13年は720件でしたが、平成21年は1,161件と約33%の大幅増加となっております。

万引きの増加の背景には、「規範意識の低下」があると言われており、この規範意識の低下は、他の犯罪発生の誘因要素ともなっていると考えられることから、本県では、規範意識の低下を象徴する万引きについて、徹底した抑止対策を講じることを最重要課題として、本年7月には事業所、関係機関、団体等と連携し、「和歌山県万引き防止対策協議会」を設立し、県内に「万引きを許さない社会気運」の醸成を図るとともに、県民の規範意識の向上及び犯罪全体の抑止を図るため、諸対策を強化推進しています。

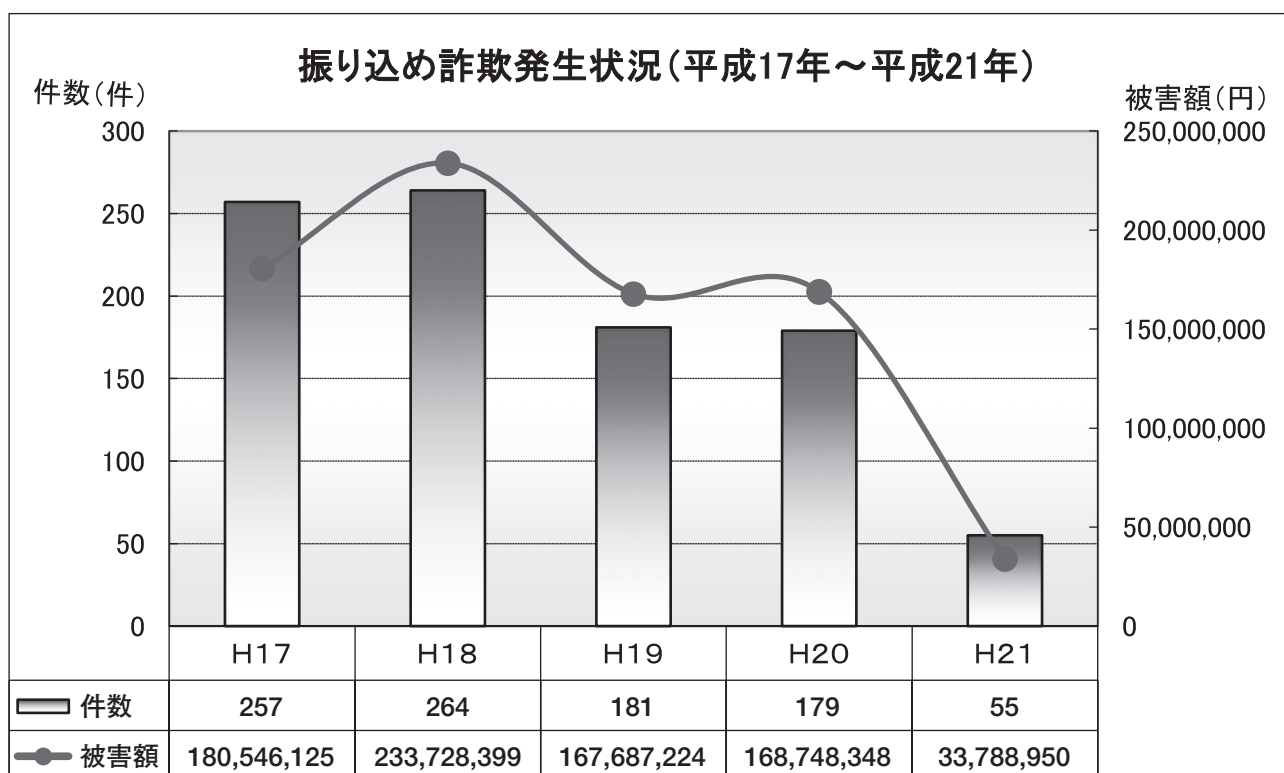


万引き防止街頭啓発

(2) 振り込め詐欺抑止対策の推進

本県の振り込め詐欺による被害は、平成21年中、認知件数が55件、被害額約3,380万円で、官民一体となった抑止活動を推進した結果、前年比124件の減少、被害額が約13,500万円の減少となっております。しかしながら、依然として架空請求詐欺が散発的に発生しており、また、警察官を装いキャッシュカードを騙し取るなどの新たな手口のオレオレ詐欺も発生するなど、予断を許さない状況にあります。

本県においては、振り込め詐欺撲滅を目標に掲げ、引き続き、事件検挙と被害防止の両面からの対策を推進しております。



(3) 防犯カメラ設置による防犯環境の整備

犯罪抑止対策の一環として、本県では、防犯カメラ等の設置による防犯環境の整備を推進しています。平成21年4月には、本県最大の繁華街であり、犯罪多発地区である和歌山市アロチ地区に防犯カメラ6台を設置したほか、平成22年3月には、警察庁の「子どもを犯罪から守るための環境づくり支援モデル事業」として、岩出市内の通学路等に子ども見守りカメラを25台設置しました。防犯カメラ設置後は、設置地域において刑法犯等が減少傾向にあることから、平成22年度においても、県警察の事業として、犯罪多発箇所である駅周辺等に防犯カメラの設置作業を推進しております。

今後は、自治体、事業所、地域住民等、地域社会全体による防犯カメラの設置拡充を推進していきたいと考えています。



子ども見守りカメラ

(4) 防犯ボランティア団体との連携・活性化と拡充

本県では、平成22年7月末現在、185団体、約16,500人の方々が、通学路における子どもの見守り活動、防犯パトロールなどの防犯ボランティア活動に従事されています。

県警察では、防犯ボランティア団体との合同パトロールや街頭啓発活動等の実施により連携を強化しているほか、全国地域安全運動期間中に実施している「安全・安心まちづくり県民大会」において、毎年、防犯ボランティア団体に、活動事例について発表していただき、県内の防犯ボランティア活動の活性化を図っています。

また、若い世代の参加促進を図り、防犯ボランティア団体の拡充や、新たな防犯ネットワーク作りにも取り組んでいるところです。



活動事例発表

(5) 子ども・女性の安全対策の推進

子どもや女性を狙った犯罪を抑止するために、県警察では、昨年に、警察本部生活安全部生活安全企画課内に設置した「子ども・女性安全対策班」を、本年4月には、「子ども・女性安全対策室」に体制を強化し、子どもや女性を対象とする性犯罪等の前兆となる声かけ、つきまとい行為等について、指導警告や検挙措置を講じ先制・予防活動を実施しています。

また、各学校において不審者侵入対応訓練を実施し、学校に不審者が侵入した場合の児童の避難措置、刺股の活用方法を学校職員に習熟させるとともに、危機管理意識の醸成を図っています。



不審者侵入対応訓練

4. おわりに

県警察が推進しています「犯罪が起きにくい社会づくり」を目指した諸対策の一部を紹介させていただきました。

県内の犯罪情勢は、数字で見ると治安回復の兆しが窺えるところですが、県民にとって身近に不安を感じるひったくり、空き巣、強制わいせつ等が増加傾向にあり、依然として予断を許さない状況から、現在、県警察では、総力を挙げて「安全で安心な和歌山」を目指し、日々諸対策に取り組んでいるところです。